



LOHAS Leader Interview

優しい緑で 都市に季節をとりもどそう

株式会社アネックス 5×緑事業部 宮田 生美 氏

昨年の環境ビジネスコンテスト、eco japan cup 2007で三井住友銀行賞を受賞した「5×緑（ゴバイミドリ）」。“緑のシステムで、都市を小さな里山でいっぱいにする”という事業とはどのようなものか。その取り組み内容について聞いた。



宮田 生美 氏



5×緑の里山ユニット (25cmキューブ)

5×緑（「ゴバイミドリ」）とはどのようなシステムなのでしょうか。

「5×緑」は直方体の金網「フトンカゴ」に軽量で保水性の高い「アクアソイル」という土を充填して植生基盤をつくり、上面だけでなく、側面にも植栽するものです。フトンカゴを使うことで、側面に植栽することができ、上面だけの緑化と比べ緑の量が5倍になることから「5×緑」と名付けました。また、フトンカゴは自由にサイズを変えることができる上、積み重ねたり、横に連結させることができるので、壁や屋上の緑化を容易に実現できます。それ自体が植栽枠になるので、上面に大小の様々な植物を植栽することができ、人工地盤上であっても、立体的で自由度の高いデザインが可能になることも特徴の一つです。

また5×緑は、昔から日本にあった植生を取り戻すために、できるだけ日本の自生種を大切に、在来の植物を使うことを心がけています。

5×緑事業を始めたきっかけを教えてください。

アネックスでは元々、都市計画などのコンサルティングを行っていましたが、10年ほど前から、自主事業に少しずつシフトしていくとしていました。また社員が自分でプロジェクトを起こせという会社の方針もあって、自分の心にかなった仕事をしたい、社会的な価値をきちんと提供できるような仕事をしたいと思ったのが、始まりです。

コンサルティングの仕事を通じて、緑に関するネットワークは既にありました。その中に建築緑化・ビル緑化の第一人者であるプランタゴの田瀬理夫さんがいらして、田瀬さんはアクロス福岡など、大きなプロジェクトを手掛けられていました。たまたま、私が自宅を建築する時に、約9坪の家までのアプローチを庭にしてくださるとおっしゃって。そこは、元はコンクリートで固められた場所だったので、3日ぐらいでとても立体的な庭ができました。それを見て、「田瀬さんの緑のシステムは、規模の大小を選ばず、こんな素敵なかんを楽しめる庭になるのだ。」と思いました。そして、田瀬さんと色々話していく内に、個人が楽しみながら緑を増やしていくことが、東京の環境が変わる大きな力になるのではないかと思い、プロジェクトが生まれたわけです。

2003年に事業を始めたとのことですが、5年経って、今どのような感想をお持ちですか？

正直に言って、ここまで広がるとはまったく思っていませんでした。

とてもよかった点は、志を共有できるチームができたことです。田瀬さんはもちろんですが、金網メーカーや土壤メーカーの方達が「5×緑」の理念をたいへんよく理解して下さった。これまで、金網は金網、人工土壤は人工土壤という形でばらばらだったのですが、「5×緑」という一連のシステムでやっていきたいということをよく理解して頂き、チームが形成できたことは大きかったです。

5年間事業を続けてきて、自分たちの使命もよく見えてきました。例えば背の高い木を植える植栽枠も、普通がコンクリートで作ります。それを「5×緑」のシステムを使えば緑で代替できるし、建物の境界もブロックの壁ではなく、緑ができるのです。コンクリートでできたものは蓄熱装置になるので、蓄熱装置を緑に変えれば、都市をクールダウンできます。

チーム5×緑の技術やノウハウを使って、それまで緑にならなかつたものを緑にして、社会的な価値を生みだす。それが自分達の使命だということが、この5年間ではつきり見えてきました。

更に、去年、環境ビジネスコンテストであるeco japan cup 2007で三井住友銀行賞を頂いてから、元々5×緑が目指していた価値観、在来植物を都市に取り戻そうという点により注目が集まってきた。単に緑化すればいいだけではなく、その質が大事だということに共感してくださる方々が増えてきています。

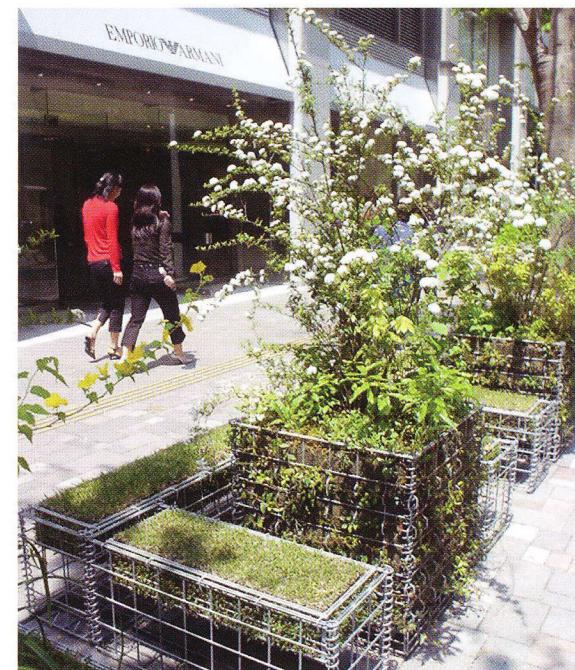
里山の保全活動も始められたそうですね。

都会は土が無くなっているので、5×緑という、新しいシステムをインターフェイスにしながら、私たちの暮らしにもう一度季節感を取り戻したいという強い気持ちがあります。草花たちが生えている里山の環境がどんどん劣化していっているということについて、具体的に何か手を打たないといけないと思いました。今は、栃木県と滋賀県で里山ネットワークの拠点を持って、森の場合は林床管理、田んぼの場合はあぜ道の管理を委託する活動を始めています。

今後どのようなことを手掛けていきたいと考えられていますか。

5×緑の緑は懐かしい、優しい緑です。ですから、多分人を癒す力がとても強いと思います。特に、お年寄りにとっては懐かしい緑なので、ぜひ緑がたっぷりの病院や高齢者施設を手掛けてみたいと思います。それから、学校など子供たちがいる場所です。小さなユニットの中に、里山の大きな木から林床の草までを移して、君たちが住んでいる元々の場所には、本当はこんな木がある、わきにはこんな芽が出て、下草はこんなのが生えていて、といったことがわかつてもらえるような教材として、使ってもらいたいと考えています。また、学校に野原がなくなっているので、屋上やグラウンドで緑の野原を作るといったことをやってみたいと考えています。

(インタビュー / 執筆担当:西口 聰)



丸の内仲通りのストリートファニチャー
(里山ユニット + ノジバのベンチ)

主な実績

2004年

- ・UR都市機構 東雲キャナルコート 3街区 高木プランターユニット
- ・日本郵政公社 新東京郵便局屋上緑化

2005年

- ・UR都市機構 東雲キャナルコート 5,6街区 高木プランターユニット
- ・千葉県企業庁 つくばエクスプレス 柏の葉駅前トラフィックキューブ (緑化ガードレール)

2006年

- ・大手前大学メディアライブラリー 里山ユニット
- ・目黒 集合住宅 外構 里山ユニット (屋上、ルーフテラス、ベランダ)

2007年

- ・日本郵政 本社エントランス ツリーサークル・緑化土留
- ・富山市 グランドプラザ モバイルグリーン・グリーンキューブ
- ・環境ビジネスコンテスト「eco japan cup2007」三井住友銀行賞

2008年

- ・福岡 九州電力ビル 緑化植栽基盤

2009年(予定)

- ・美術館(広尾)

会社概要

社名: 株式会社 アネックス
5×緑（ゴバイミドリ）事業部
mail@5baimidori.com
http://www.5baimidori.com/